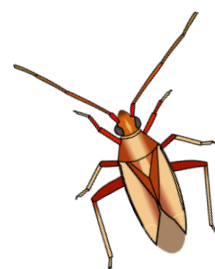


アカスジカスミカメ

【 学名 : *Stenotus rubrovittatus* 】



稲穂から吸汁し斑点米を発生させる、「斑点米カメムシ」の一種で、広島県では主要な加害種の一つです。斑点米を発生させるカスミカメムシ類には、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ムギカスミカメなどがいます。

【見分け方】

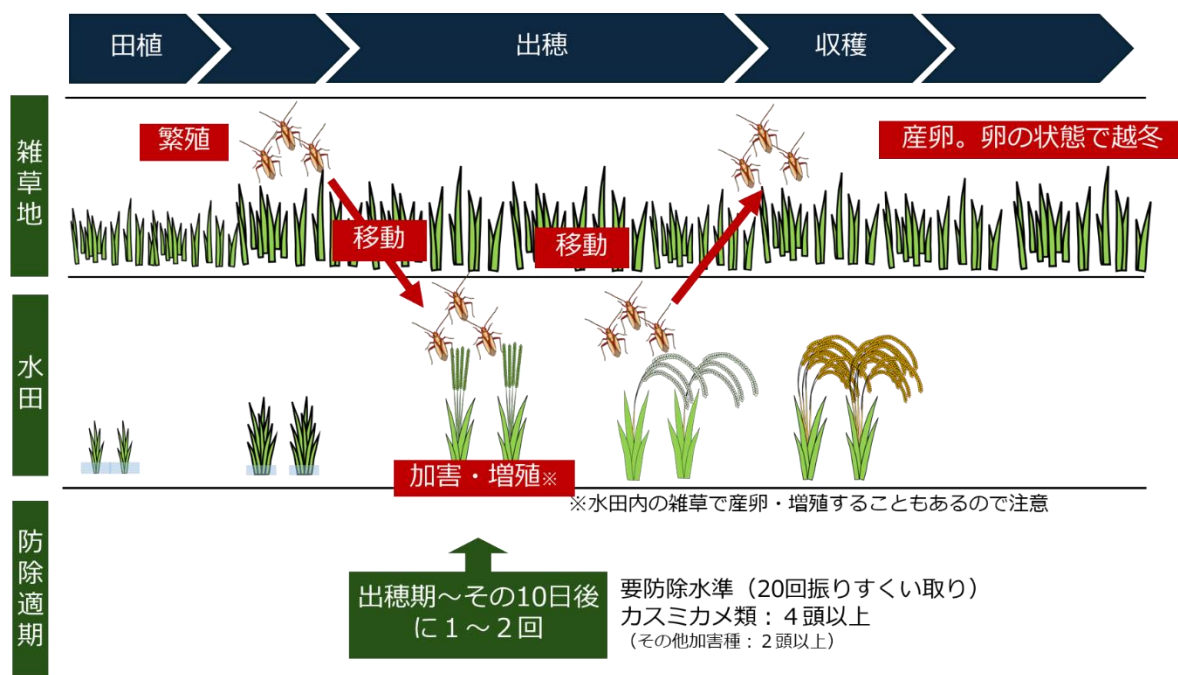
- ・ 幼虫は体長約 1 ～ 4 mm、成虫は約 5 mm で、とても小さなカメムシです。
- ・ 薄緑色の体に背中中央に赤い筋があります。触覚と足も赤いです。

【発生生態】

・ 主にイネ科雑草、牧草のイタリアンライグラス等で繁殖し、水稻の出穂とともに水田に侵入します。また、本田内のカヤツリグサ科雑草の小穂にも産卵し、水田内で増殖することがあるので注意が必要です。

- ・ 成虫は年 4 回程度出現し、主にイネ科雑草の穎花内で卵の状態越冬します。

第 1 世代成虫は 6 月上旬頃、第 2 世代成虫が 7 月中旬頃、第 3 世代成虫が 8 月中旬頃、第 4 世代成虫は 9 月中旬頃 に出現します。



【被害】

- ・カスミカメムシ類は口針が弱く籾殻を突き通す事ができないため、籾の隙間から吸汁します。被害は籾の頂部や鉤合部に多いです。また、割れ籾が多いと被害が発生しやすくなります。
- ・開花期から登熟初期に籾の先端から加害された場合、玄米の尻側が黒く変色する尻黒米が発生します。割れ籾が発生すると玄米側面が黒く変色する黒蝕米が発生します。

【対策】

■予防に関する対策

- ・畦畔の雑草管理を適正に行う。「病虫害・雑草防除に関する資料（４）ウ（オ）」の「[畦畔管理等の改善による斑点米被害の軽減対策](#)」を参照してください。
- ・被害にあいやすいほ場周囲を別に収穫するとよいです。
- ・けい畔にグランドカバープランツを植栽することにより、イネ科雑草の減少を図りましょう。
- ・水田内のノビエやイヌホタルイを除草しましょう。

■判断・防除に関する対策

- ・捕虫網で 20 回振りすくい取りを行い、4 頭以上捕まった場合、1 等米から 2 等米への格下げが発生します。出穂期～その 10 日後に 1～2 回防除しましょう。